



飯泉取水堰の紹介



神奈川県内広域水道企業団 佐藤 尚行
(令和6年度抄録委員会委員)

1. 施設の概要

神奈川県内広域水道企業団では、一級河川の相模川と二級河川の酒匂川から原水を取水しています。ここでは酒匂川に設置している飯泉取水堰について、紹介します。飯泉取水堰は、河口から約2.3km 上流に位置している延長342.5m の堰であり、小田原市内にある取水堰から川崎市内の西長沢浄水場まで他2か所の浄水場を経由して、約55km の距離を導水しています。

飯泉取水堰は、水道用水供給事業者である当企業団が管理しており、管理規程に基づいて、堰の操作を当企業団職員が直営で実施しています。取水堰への流入量の変化によって出水・洪水の警戒態勢をとり、放流量を増やす場合には下流側の安全確認のために警報車で河川敷を巡回しています。

2. 周辺環境

酒匂川は、環境省の絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されているコアジサシの飛来地となっており、堰下流の中州では、春先には空を舞うコアジサシを見ることができます。また、天然アユが豊富な川として知られている酒匂川では、毎年春には多くのアユが海から遡上し、飯泉取水堰の魚道を通り上流側に上っていきます。アユの遡上時期には、サギやカワウが魚道に陣取り、虎視眈々と稚鮎を狙っていますが、それでもなお多くのアユが魚道を上っていきます。

飯泉取水堰の湛水域には、鯉やスッポンが生息し、堰の管理橋からは魚影（亀影？）がみられます。冬の湛水域では、カモなどの水鳥も多くにぎわい、地元住民からの関心が寄せられています。

